



今日から通学合宿がはじまるよ。
地域のおじさん、おばさんに支えてもらっていっぱい体験するぞ！！

教育委員会だより

第2号

益田市教育委員会より 平成24年7月17日発行

「開かれた学校づくり」から「地域とつなげる学校づくり」へ

教育長 三浦正樹

市民学習センター前の樺の大木は鬱蒼と葉を茂らせ、山桃は真っ赤な実をつけています。

さて、十数年前から「開かれた学校づくり」をキーワードに、学校は、子どもたちの教育の実態について保護者や地域住民に説明責任を果たすことが求められてきました。

そうした中で、平成19年の学校教育法の一部改正により「学校評価」が規定されました。学校運営について地域住民等の評価を受け、PDCAサイクルに基づき継続的に改善していくことにより、教育水準の向上を図ることを主旨としています。

また、益田市においては、平成23年度より国や県の補助事業を活用し「教育協働化推進事業」に取り組んでいます。全小中学校で地域

住民等が学校教育に関わることに、子どもの学びを支援すると共に、大人が絆を強め地域づくりの担い手となっていたいただくことを主旨としています。

この二つの制度を「地域とともにある学校づくり」の視点から統合発展させたものとして、「コミュニティ・スクール」があります。

コミュニティ・スクールに指定された学校には「学校運営協議会」が設置されます。その中で、教育委員会から任命された保護者、地域住民などの委員は、一定の権限と責任を持って、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりすることなどを通じて、学校の様々な課題解決に参画することになります。

全国では、平成24年4月現在、38都道府県で一、一

八三校が取組んでいます。文部科学省は、将来的には全ての学校で取組むことを視野に、今後5年間で全公立小中学校の1割（約三三校）に拡大することを目標とし、様々な施策を用意しています。

これまでの「開かれた学校づくり」から「地域とともにある学校づくり」へ発展させるために、学校と家庭、地域、教育委員会等が総ぐるみで学社融合の視点から教育に取組むことが必要になります。

今年度から調査研究に着手します。

(平成24年7月1日記)

目次

表紙（学校紹介）	・・・1P
教育長寄稿	・・・2P
教育部長寄稿	・・・2P
教育情報	・・・2、3P
カラフル給食タイム	・・・4P
寄付、寄贈のお礼	・・・
編集後記	・・・

地域とともにある学校を目指して

教育部長 林 秀輔

子どもたちには、基礎・基本をしっかりと身につけさせ、それを活用しながら自ら学び自ら考える、「確かな学力」を育成する必要があります。

子どもたちは、多くの人と関わることで成長すると思います。教育は、家庭だけでなく、学校だけでも成り立たないと思います。家庭、学校、そして人との関わりを持つ地域との連携により、うまく機能していくと思います。

このことは、これまでも必要性は多くの方が認識されていますが、実践に結びついているでしょうか。学力をはじめ様々な課題が解決されているでしょうか。

6月定例市議会において、「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」の指定の考えがあるのか。」との質問がありました。

コミュニティ・スクールのイメージ



学校だけの処方箋で、先が見通せますか。もつと地域に実情をオープンにしてみませんか。学校、家庭、地域と教育委員会が密接に連携して、「地域とともにある学校づくり」を進めてみればいかがでしょうか。

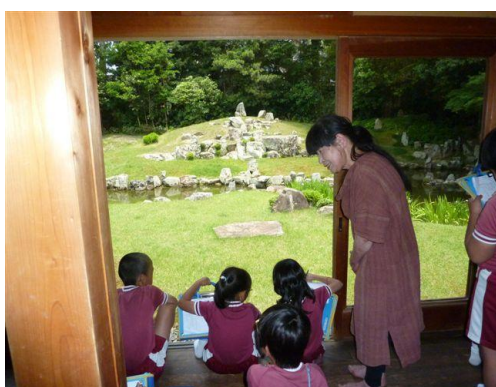
発見！ 驚き！ ふるさと体験・見学バスの旅

昨年度から始まった「ふるさと益田体験バスツアー」が今年度も順調にスタートしました。この事業は、ふるさと読本「益田ふるさと物語」や「ふるさと益田農林水産業等見学・体験プログラム」の活用版としての事業で、市内の小学生を対象としています。

この事業を通して、益田



秦博士の少年時代のことなど
たくさん学びました。
(秦記念館見学・二川小)



庭園をいつまでも見ていたかったです。
(萬福寺見学・安田小)

市の文化施設や産業施設また遺跡などを見学したり、あるいは体験したりすることによって、ふるさと益田のよさや課題を知ってもらうことを目的としています。

今年度も全ての小学校が計画を立てて実施します。

見学先としては、医光寺、萬福寺、秦記念館、雪舟の郷記念館、歴史民俗資料館



おいしいメロンができますように。
(メロン活動・匹見小)

などの文化施設、JFしまね、飯田選果場、メイプル牧場などの産業施設などを訪ねて学習します。

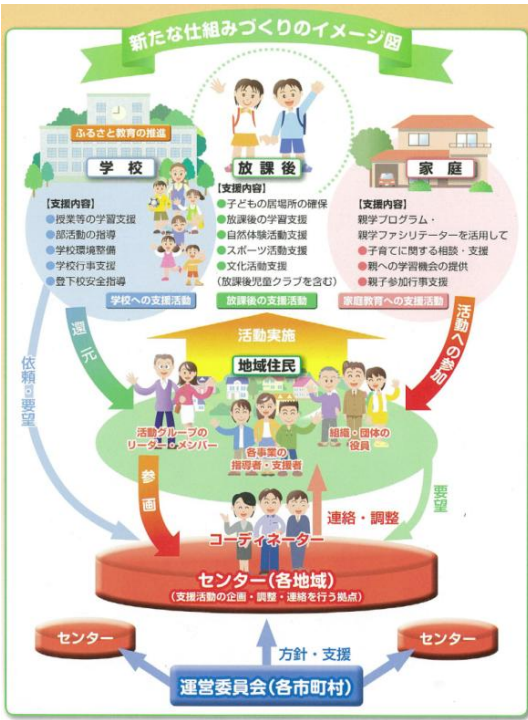
また、メロン農家、ゆず農家、紙すきの宿、匹見の森などで体験学習もします。

一学期から既に体験・見学バスの旅を始めています。今号から写真を交えて、その様子をお伝えしていきます。

益田市教育協働化推進事業(つろうて子育て)

島根県教育委員会は、平成24年度から4事業(ふるさと教育推進事業・学校支援地域本部事業・放課後子ども教室推進事業・家庭教育支援事業)の連携を進めています。益田市は、昨年度から、学校、家庭及び地域住民がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりとして『つろうて子育て』を合言葉に教育協働化に取り組んでいます。県の方向性と合致した本事業の取り組みとして、今年度は以下の4つについて事業展開を

① 情報と人材を集め、総合的に企画・調整・連絡を行う活動の拠点センター(公民館)機能の充実を図る。
 ② 各事業の取り組みを総合的に調整するコーディネーターの配置。
 ③ 合同研修会の開催や人材バンクの一元化を行い、効率よく運営する。
 ④ 複数の会議を一つにまとめ、総合的に検討が進められる組織を作る。(協議会の一本化)



『結集！しまねの子育て協働プロジェクト』のイメージ図
 (島根県教育委員会パンフレットより)

(活動事例)

※東陽中PTA総会研修会
 東陽中学校では、ふるさと教育推進事業(地域医療)の取組が始まりました。PTA総会に併せ、島根県立石見高等看護学院副院長竹内節子さんに『地域医療を支える For Our Future』を演題として講演いただきました。3年生は自分の進路学習として、1・2年生は人と関わることの大切さについて学ぶ機会になりました。



「竹内節子さん」

中世の湊町 中須東原遺跡について

(第二回 地理編)

中須東原遺跡は、益田市の中須町で見つかった中世の湊の遺跡です。今からは想像しがたいのですが、中世の当時は、益田平野一帯は水の底にありました。久城から大塚にかけて発達した砂丘によって「古益田湖」と呼ばれる潟湖が形成されていました。この潟湖は、現在の乙吉町から中吉田町にかけての国道9号線と中吉田町から高津に至る国道191号線の北側一帯に広がっていました。

益田川を下ると、乙吉町今市付近で目の前に広大な湖が広がってきます。湖の真ん中には中島(町)がポツカリと浮かび、遠く中須から久城一帯の湖岸に中須東原・西原や沖手の湊がみえます。そして、沖には外洋船が停泊し、湖内を川船が行き交います。こうした、中世の景観を想像することができるとも、中世の遺産が数多く残る益田ならではの風景にさかのぼる町割りや地名もあちこちに残っています。どうぞ歴史探訪に出かけてみてください。



図中○部分が中須東原遺跡

噛むちからを養う

噛む意識づくりを献立に反映

6月の学校給食は歯の衛生週間（6月4日～10日）にちなんで子ども達の「噛むちから」を養えるよう献立に工夫を凝らしました。なかでも益田市学校給食共同調理場が6月8日に提供した献立には噛みごたえのある食材（さきいか、寒天、アーモンド、ちりめん、エリンギなど）をバランスよく取り入れたため、子ども達にも大好評でした。

現代社会に必要な「噛むちから」

現代社会では、時間に追われるあまり、どうしても食事時間が短縮される傾向にあります。それによって「噛むこと」がおろそかになると、体調面に様々な弊害を及ぼすことになりかねません。「噛むこと」は唾液の分泌を促し脳を活性化するなど様々な効果があります。

このことから「よく噛んで食べることを幼少期から

学校給食で広がる健康づくり

指導していく必要性は増しており、学校給食でも「噛むちから」を育ていくよう配慮しています。

噛む効果

- ★ 胃をサポート
- ★ 歯の病気を予防する
- ★ 肥満予防
- ★ がんの予防
- ★ あごが発達し歯並びが良くなる
- ★ 脳の動きを活性化する
- ★ ストレス解消

（益田圏域健康長寿しな推進会議「めぐもそう8020」より）

固い？

でもよく噛んで食べよう

当日は寒天を初めて見たという児童も多く、しげしげと見つめながらも、よく噛んで食べることに一生懸命な様子でした。試食会に参加された保護者からは「エリンギなどの野菜が多く入っているからか、カレーの味が家庭で作るものよりも甘くて優しい。」「さきいかやちりめんを入れ

た献立は家庭での料理の参考になる。」といった感想も寄せられました。また、「家庭に比べてご飯が多いのでは？」と心配される保護者の方もおられました。が、児童にとつてちよつぱり苦手な食材もカレーと組み合わせることによって食べやすくなる面もあり、どの児童も残さず食べていました。

★6月8日の献立

カミカミサラダ、チキンカレー、むぎごはん、牛乳



献立作成：岩成美紀

寄付、寄贈のお礼

寄贈

- 調べ学習用図書を各小中学校へ
- ・公益社団法人益田法人会 様
- 図書を各小中学校と図書館へ
- ・益田オンリーワンクラブ 様
- ・骨髓バンク普及啓発ボランティア 様
- らいらつくの会 様

寄付

- 益田市奨学金へ
- ・高津一丁目 上田 秀幸 様
- 学校図書費へ
- ・匿名 2名 様

編集後記

今年梅雨らしい天気が続いており、夏は猛暑になるとの予想があります。水分や睡眠を十分取って健康に気をつけたいものです。まもなく、子どもたちは夏休みを迎えますが、学校で配布される「ふるさと発見。パスポート in ますだ」を片手に、家族で益田の史跡めぐりを楽しんでみてはいかがでしょうか。さらに今年、AKARIプロジェクト「行灯製作」の企画がありますので、ふるってご参加ください（問合せ：文化財課）。きつと素敵な発見があることでしょう。よい思い出をたくさん作って、大きく成長して新学期を迎えてほしいものです。（S・O）



益田法人会 様